

東北支部総会記念 戸沼幸市先生講演会「東北からの国づくり」

1. はじめに

2012年4月21日(土) 仙台市戦災復興記念館において、2012年度東北支部総会が開催され、その後(財)日本開発構想研究所理事長、早稲田大学名誉教授、戸沼幸市先生より記念講演をいただいた。当日は、戸沼先生の弟子にあたる相羽康雄東北支部長から、「東北支部を作れ」という話を最初にされたのが戸沼先生であるという紹介から、講演会が始まった。講演に引き続いて、被災地の現状と復興の課題について、参加者との間で自由な意見交換がなされたが、以下では講演の概要を紹介する。

2. 東北とのつながり

生まれは津軽の鯔が沢で、三内丸山遺跡に代表されるように縄文遺跡が出てくる地域である。縄文人というのは海産物と山の木の実などの採取で生きてきた人たちで、津波からも逃げる知恵があったはずである。

1968年、佐藤栄作内閣が「21世紀の日本」コンペを行った。この時早稲田大学では、文系理系一緒に新しいアイデアを議論してから逆算的にフィジカルプランとソーシャルプランを考え、「東北：北上京遷都論」をまとめた。1970年代の新全総時代に太平洋岸だけが開発されて、日本海側がどのようにバックアップするかが重要となってきた。そこで、日本列島をひっくりかえして眺めて、日本海を平和の海にする構想を打ち出した。これらの活動を手始めとして、国土計画のコンサルタントを50年間務めてきた。少子高齢化に対応する構想として、「宮城エコポリスネットワーク構想」を提案し、宮城大学などの設立の準備の手伝いも行ってきた。現在は、開発構想研究所の理事長をしており、日本全体が人口減少、少子高齢化の中で地域政策が転換期を迎えている中、国土政策局の依頼で、各国の国土政策の比較を行っている。また下河辺淳氏の全総に関する資料アーカイブスを預かっている。

3. 東北からの国づくり

総面積は7.4万平方キロ、オーストラリア並み。総人口は1200万人、GDPも一国並みにある。日本では、縄文時代以降人口が増加し続けてきたが、東北において、ついで全国において、人口が減少に転じた。今後も秋田・青森の人口が急速に減り、サービスが維持できない地域がどんどん増えてくる。コミュニティ、県、あるいはさらに広域の組織での対応をどのように進め

るかが課題となる。一方で、国土計画局が無くなり、課題に立ち向かう組織は十分とは言えなくなった。

これまでの国土計画の流れは、広域地方圏計画立案の際に豊富な資料が集められている。これからの国土計画の中で、東北圏はどういう視点で作るのかを皆さんへの宿題にしたい。赤坂隆雄による東北学というのもあるが、東北をひとつの国として考えた時に、どういう見方をするのか、自分達の子供にどのような歴史を教えるのかがテーマである。

森と海がキーワードではないか？人間の居住は海との関係が基本であり、海を意識した生活圏の構築がテーマである。一方、エネルギー政策との関係も重要である。これまで東北は、関東と合わせ一つのエネルギー供給圏と捉えられてきた。新全総から火力+石油備蓄。原子力という方向性が書かれ、福島原発は昭和41年ごろから設置申請手続きに入っている。5全総「国土のグランドデザイン」まで、原発整備が地域振興と絡めて描かれ、東北は原発の設置に多く手を挙げてきた。今後、新エネルギーをどう書いていくのかが問われている。

首都機能移転の議論は平成14年ぐらいにストップしたが、東海・東南海・南海・首都直下地震のリスク評価に関連して、首都中枢機能のバックアップの議論が再び起こりつつある。東北がどのように貢献できるかという視点も必要である。

4. おわりに

東北支部の設立は、一堂に会して情報交流する場ができたという意義が大きい。このような交流活動が2年間ぐらいつつと、いい結果が出てくると期待している。

質疑応答の中で、スマートグリッドの構想や生命圏としてのネットワーク、さらに家族の崩壊の一方で社会の中で出てくるNPOなどの新しいネットワークが、今後の地域計画の中で重要であることを指摘された。

(文責：副支部長 奥村誠)



質疑に耳を傾ける
戸沼幸市先生